

古書院を望む：
回遊式庭園に顔をのぞかせる 数寄屋風の純日本建築物



撮影：2015年5月（京都府京都市・桂離宮）

◆視点場が前へ前へと移っていく

17世紀初頭に古書院が建てられたあとに、中書院、新御殿、月波楼、松琴亭などが新增築されました。創建以来火災に遭わない建築物群は、複雑に入り組む汀線をもつ回遊式庭園を引き立てます。州浜の先の岬灯籠や石橋に自らを浮遊させることで風景全容が見えてきます。

◆変わらぬ風景の中での変化

手前の石橋と中島のつながりは“天の橋立”に見立てたものですが、10数年前までは中島に大きな松がありましたが、今は消えてしまいました。桂離宮の風景も年月とともに変わります。

岡村幸二（JRRN会員）